

DA
3032
2002
(HG)

筑波大学博士(言語学)学位請求論文

『捷解新語』における音注配置の原理
—日本語学習書としての性格の解明—

趙來喆



03006584

目 次

凡例

第1章 序論 1

1. 研究の意義、及び目標.....	1
2. 研究の範囲、及び方法.....	2
3. 研究の構成.....	2

第2章 研究資料及び研究史 6

1. 朝鮮資料の性格.....	6
1.1. 日本語学習書.....	7
1.2. 朝鮮語学習書.....	11
2. 研究史 一先行研究と問題提起一.....	12
2.1. 先行研究の概観.....	13
2.1.1. 森田武(1973).....	13
2.1.2. 安田章(1973).....	18
2.1.3. 安田章(1987).....	22
2.1.4. 辻星児(1997).....	23
2.1.5. 趙燭熙(2001).....	24
2.2. 先行研究の問題点に対する本論文の立場.....	27

第3章 日本語本文の性質 31

1. はじめに.....	31
--------------	----

2. 先行研究と問題提起	32
3. 假名表記の実態	33
3.1. 假名の種類	33
3.2. 假名遣い	40
4. 漢字表記	42
5. 本章のまとめ	42

第4章 対訳・音注配置の比較 47

1. はじめに	47
2. 先行研究と問題提起	49
3. 対訳・音注の配置の原則	52
4. 対訳・音注の配置——漢語が漢字対訳される場合	54
4.1. 「真横対訳」「真横音注」の場合	57
4.2. 「ずらし対訳」「真横音注」の場合	58
4.3. 「ずらし対訳」「ずらし音注」の場合	59
4.4. 「真横対訳」「ずらし音注」の場合	61
5. 舌内入声音の対訳・音注について	65
6. 本章のまとめ	67

第5章 音注配置の原理 73

1. はじめに	73
2. 先行研究と問題提起	73
3. 音注配置の実態—全体の原則	74
4. 撥音の音注配置	76
5. 促音及び舌内入声音の音注配置	82
6. 拗音の音注配置	86
7. 本章のまとめ	89

第6章 音注における並書表記	95
1. はじめに	95
2. 先行研究と問題提起	96
3. 舌内入声音、促音を除いた並書・単書表記	100
3.1. 「カ行」	101
3.2. 「タ行」	102
3.3. 「サ行」	103
3.4. 「ナ行」	104
3.5. 本節のまとめ	105
4. 「有氣音」「濁音」の並書表記	106
4.1. 「有氣音」	106
4.2. 「濁音」	107
5. 並書表記が用いられる環境	113
5.1. 語中・語末の並書表記	113
5.1.1. 「～かと」、「たと」	113
5.1.2. 「～てこそ」	114
5.2. 先行母音と並書表記	115
6. 本章のまとめ	117
第7章 舌内入声音の表記と音価	123
1. はじめに	123
2. 先行研究と問題提起	123
3. キリシタン資料のローマ字表記	125
3.1. 『日葡辞書』の舌内入声音の表記	125
3.2. アビラ・ヒロン『日本王国記』の表記	128
3.2.1. 舌内入声音の表記t・tz・tzu	129

目 次

3.2.2. 語中・語末の狹母音の表記·····	130
3.3. 舌内入声音-tの音価について·····	132
4. 『捷解新語』のハングル表記·····	134
4.1. 舌内入声音のハングル表記·····	135
4.2. 舌内入声音の開音節化·····	137
5. 本章のまとめ·····	139
第 8 章 音注・日本語本文における長音·····	146
1. はじめに·····	146
2. 先行研究と問題提起·····	147
3. 長音及び拗長音の音注配置·····	149
3.1. 長音の音注配置·····	149
3.2. 拗長音の音注配置·····	152
4. 長音「～う」「～お」の表記·····	153
4.1. 「～う」表記と「～お」表記の実態·····	154
4.2. 日本語本文と音注表記との対応·····	158
5. 長音の無表記·····	160
5.1. ク活用形容詞連用形の音便形に生じる長音無表記·····	160
5.2. シク活用形容詞連用形の音便形に生じる長音無表記·····	164
5.3. その他の長音無表記·····	165
6. 『捷解新語』における長音把握の特性·····	168
7. 本章のまとめ·····	169
第 9 章 結論·····	175
1. 本論文のまとめ·····	175
2. 今後の課題·····	180

目 次

参考文献	182
本論文の構成と既発表論文との関係	189
資料：『捷解新語』(原刊本、改修本、重刊本)の巻一、2	191

<凡例>

1. 調査資料として用いる『原刊活字本捷解新語』『改修捷解新語』『重刊捷解新語』は、原則として「原刊本」「改修本」「重刊本」と呼ぶ。また、用例を掲出する場合は、「原刊本卷一の一丁表」「原刊本卷一の一丁裏」を「原一1オ」「原一1ウ」のように略記した。以下、「改修本」「重刊本」の用例を掲出する場合も同様である。
2. 資料を本文に引用するにあたって、原典の表記を次のように改めた。
 - (1)文脈理解の便宜のため、必要に応じて「筆者注」を付けた。
 - (2)引用する日本語本文に下線が引いてあるのは、本論文で論じている内容と直接関わりがあることを示す。
 - (3)文献の旧字の漢字・仮名には、現行字体を用いたところがある。
 - (4)仮名字体を問題とする第3章以外の日本語本文の仮名は、現行の平仮名に改めることを原則とした。
 - (5)日本語本文に対する文釈は、主に京都大学文学部国語学国文学研究室編(1973)の文釈による。
3. 先行研究の「諺文表記」「支那資料」等の用語は、それぞれ本論文で用いる「ハングル表記」「中国資料」と同等の用語として取り扱った。
4. 参考文献はそれぞれ各章の最後に挙げ、本論文の調査対象となっている『捷解新語』関連の調査資料は重複を避けるため本論文の最後にまとめて挙げた。
5. 注は各章ごとの連番で、それぞれの章の最後に付した。
6. ハングルのローマ字表記は、原則として河野(1994)による。

初声子音 ㅋ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅇ ㅈ ㅌ ㅍ ㅎ
k n t r m p s ' c ch kh th ph h

(並書)	ㄱ	ㅋ	ㅃ	ㅆ	ㅉ					
	kk	tt	pp	ss	cc					
母 音	ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅕ	ㅜ	ㅘ	ㅡ	ㅣ
	a	ya	e	ye	o	yo	u	yu	m	i

その他、終声子音の「-o」は「-ŋ」とする。また、先行研究で用いる初声子音「-o」(')と母音「ə」は、それぞれ初声子音「-o」(')、母音「ㅓ」(ɔ)と同等のものとして取り扱った。